

授業科目名： 健康教育論	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永瀬悦子
			担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 健康		
授業のテーマ及び到達目標 1. 子どもの健康的な生活や発育発達に対する基礎的な知識を理解できる。 2. 現代社会における子どもの健康を阻害する要因を分析できる。 3. 子どもの健康課題を解決していくための教育を説明できる。 4. 子どもの健康課題を解決および健康の維持増進のための健康教育を実践できる。			
授業の概要 現代の子どもを取り巻く生活環境の課題を理解し、子どもの健康課題を理解していくための健康教育について学ぶ。特に子どもの健康に関する生活習慣や心身の発育発達の特徴を理解し、適切な指導方法を身につける。本授業は講義だけではなくアクティブラーニングを取り入れ、受講生が自分の考えを発表する場を設ける。最後に、受講生が健康教育(ロールプレイ)を発表しその評価を行う。			
授業計画 第1回：本授業の目的と意義 『幼稚園教育要領 平成29年3月告示 文部科学省』『保育所保育指針 厚生労働省』『幼保連携型連携認定こども園・保育要領 内閣府・文部科学省・厚生労働省』を使用して「ねらい」と「目標」を確認する。それを踏まえ、子どもの健康の概念を理解する。 第2回：現代の子どもを取り巻く生活環境と健康課題 現代社会との関連から子どもの実態と課題を見出す。 第3回：子どもの生活リズムと睡眠・覚醒リズム 子どもの生活リズムと睡眠・覚醒リズムを理解する。また、現在の子どもの生活リズムについて理解し健康課題を見出す。更に、その健康課題を解決するために必要な保育・教育を考える。 第4回：子どもの食生活・食育 子どもの食生活を理解し、現代の子どもの「食」に関する健康課題を見出す。また、その健康課題を可決するための必要な保育・教育を考える。			

第5回：子どもの体力・運動能力

子どもの体力・運動能力を理解し、現代の子どもの体力・運動能力を理解し、その課題を解決するために必要な保育・教育を考える。

第6回：子どもの遊び・子どもに関するメディア

子どもの遊び・子どもに関するメディアによる健康被害を理解し、現代の子どもの「遊び・メディア」に関する健康課題を見出す。また、その健康課題を解決するために必要な保育・教育を考える。

第7回：子どもを取り巻く課題

これまでに学習してきたことを踏まえ、現代の子どもを取り巻く健康課題を見出す。また、その健康課題を解決するために必要な保育・教育を考える。

第8回：健康教育の準備・計画・展開・評価について

健康課題を解決するための健康教育の計画立案をする。

第9回：安全教育：安全教育、安全管理、事故、災害対応

第10回：現状と課題：幼児教育の健康に関わる現代的課題について考える

第11回：乳幼児期の発育発達と健康：乳幼児の発育発達について学ぶ。また、体の形態的発育と発育曲線と評価方法についても学ぶ。

第12回：乳幼児期の生活習慣と健康：乳幼児期の基本的な生活習慣について学ぶ。

第13回：乳幼児期の食と健康：子どもの食を取り巻く現状と課題、食物アレルギーの現状と対応策について学ぶ。

第14回：乳幼児の健康支援：健康状態の観察、発育・発達状態の把握について学ぶ。健康を逸脱した状況における健康支援のあり方を学ぶ。

第15回：まとめと今後の課題

一連の教育実践の過程で、今後必要な課題を見出し改善策について考える。

定期試験

テキスト

浮田咲子・町田太郎編著『新・保育内容 健康』教育情報出版

参考書・参考資料等

重安智子・安見克夫編著『保育内容 健康』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

ペーパー試験(50%) 課題発表(50%)

授業科目名： 子どもの遊び文化	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 一柳智子
			担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標			
文化人類学的、民俗学的視点により、子どもの遊びの文化を考える。そのために以下の目標を掲げる。 1. いろいろな文化における遊びの意義を理解すること。 2. 子どもにとっての遊びの意義と役割を理解すること。			
授業の概要			
本授業の鍵となる概念「遊び」は、複数の局面を有する。子どもにとって生活そのものであると言える「遊び」を、ここでは文化人類学的及び民俗学的視点より考える。ホイジンガの概念を基礎とし、具体的に世界的視野の広がりの中から俯瞰的に眺める。さらに、民俗学的視点を芸能という側面から種々の事例をもとに考える。そして、授業後のフィードバックとして、遊びと文化の関係性を子ども学的視点から考える。			
授業計画			
第1回：遊びとは：遊戯の基本的概念。ホイジンガの遊戯理論。			
第2回：遊びと文化の関係：文化人類学的視点：1 遊戯の民族文化性。			
第3回：遊びと文化の関係：文化人類学的視点：2 遊戯の研究史。			
第4回：遊びと文化の関係：子ども学的視点：3 子どもにとっての遊びとは			
第5回：遊びの系統的分類：日本の子ども遊戯より。講読			
第6回：遊びの系統的分類：スポーツの起源から。講読			
第7回：世界の子ども遊戯：1 アジア・オセアニア 講読			
第8回：世界の子ども遊戯：2 南北アメリカ 講読			
第9回：世界の子ども遊戯：3 ヨーロッパ 講			
第10回：芸能の遊戯性：1 芸能と芸術 子どもとパフォーミング・アーツ			
第11回：芸能の遊戯性：2 世界のパフォーミング・アーツと子ども			
第12回：芸能の遊戯性：3 日本のパフォーミング・アーツ概論			
第13回：芸能の遊戯性：4 福島のパフォーミング・アーツ概論			
第14回：芸能の遊戯性：5 福島の子どものパフォーミング・アーツ			
第15回：遊びと文化の関係性を子ども学的視点から考察する。			

定期試験
テキスト 随時配布物あり
参考書・参考資料等 『ホモ・ルーデンス』（ホイジンガ著、中公文庫） 『遊びと人間』（ロジェ・カイヨワ著、講談社学術文庫）
学生に対する評価 試験60%、レポート40%

授業科目名： 保育内容・方法の研究 健康	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 一柳智子 永瀬悦子 担当形態： 複数
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 子どもの育ちにおける基盤としての心身の健康に関して、運動・身体・心理・発育発達・食育の諸視点から総合的に学び、教育・保育に役立てる。 そのため、下記のような到達目標を設定する。 1. 子どもの育ちにおける根幹としての心身の健康の意義を理解する。 2. 子どもの身体への解釈の方法を知る。 3. 子どもの発育発達の特徴と運動、生活習慣について理解する。			
授業の概要 幼児教育および保育における子どもの発育発達の指針である5領域のうち「健康」は、まず初めに項目立てられている。前半は、幼児教育の基本として、全体的眺め、心身の健康へと発展的に考えていく。子どもにとって遊びは生活そのものであり、遊びによって培われる健康から身体へと眼差しを向ける。後半は、乳幼児の身体的発育発達、生活習慣、食育へと分析的に眺める。最後に、授業内容を総合的に踏まえ、保育実践における保育内容と方法について考察する。			
授業計画 第1回：幼児教育の基本：幼児教育の根幹・目的・領域について 第2回：幼児教育の基本：保育者の役割、他領域との関係について 第3回：子どもの育ちと領域「健康」：運動能力と情緒、子どものころ 第4回：園生活と生活習慣：園生活の中で育む生活習慣 第5回：健康と遊び：子どもの遊び 第6回：子どもの身体論：精神論から身体論へ。ポストヒューマン的展開理論について 第7回：身体論から身体表現論へ：運動とイメージから表現へ 第8回：乳幼児期の発達と運動：乳幼児期の発達段階に応じた運動と健康との関連について学ぶ。 第9回：教材作成(1) 子どもを対象とした健康教育の指導計画の立案に基づき教材作成をする。 第10回：教材作成(2) 子どもを対象とした健康教育の指導計画の立案に基づき教材作成をする。			

第11回：教材作成(3)

子どもを対象とした健康教育の指導計画の立案に基づき教材作成をする。

第12回：教材作成(4)

子どもを対象とした健康教育の指導計画の立案に基づき教材作成をする。

第13回：健康教育の実践(1)

授業において健康教育を発表して評価をする。その評価を基に修正する。

第14回：健康教育の実践(2)

授業または就学前施設において、健康教育を実際に発表して評価する。

第15回：

保育実践との関わりの中における子どもの健康に関する指導内容と方法に関して、全体的まとめとして小学校への接続を含めて包括的に考察する。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修『保育内容・健康』同文書院

参考書・参考資料等

レイチェル・バーグ、ジュディス・ダンカン著『子どもの身体』福村出版

重安智子・安見克夫編著『保育内容 健康』ミネルヴァ書房

浮田咲子・町田太郎編著『新・保育内容 健康』教育情報

学生に対する評価

レポート・試験80％、授業態度20％

授業科目名： 保育内容・方法の研究 人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇治和子 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 子どもが体験している様々な場面での人間関係を臨機応変に指導できる 2. 子どもの育ちと人間関係についてその重要性を説明できる			
授業の概要 人は一人では生きていけない。他の人々と親しみ支え合って生活するために、子どもの自立心を育て、人と関わっていく力に注目しそれを育てていく必要がある。本講義では、子どもらが共に生きていく人々との間で作り上げる「人間関係」について、各テーマごとの指導計画や実践例を具体的に検討していくことで、指導力を身につける。			
授業計画 第1回：人と人との関係について 第2回：子どもを“一人の個人”としてみる 第3回：子どもを取り巻く人々（家庭） 第4回：子どもを取り巻く人々（園） 第5回：子どもを取り巻く人々（地域） 第6回：乳幼児保育における人間関係 第7回：子どもの遊びと人間関係（遊びの発達） 第8回：子どもの遊びと人間関係（身体的コミュニケーションの発達） 第9回：子どもの遊びと人間関係（社会的災害等で遊びを保障できない問題） 第10回：子ども同士のトラブル 第11回：子ども同士のトラブルと保護者の感情 第12回：子どもの感情表現 第13回：子どもの自我の発達 第14回：子どもとルール 第15回：多様な仲間を理解していく 定期試験は代替レポートとする			
テキスト 特に指定せずレジュメを用意する			
参考書・参考資料等 適宜紹介する			
学生に対する評価 ディスカッションへの積極的参加30％・課題発表30％・レポート提出40％			

授業科目名： 保育内容・方法の研究 環境	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴田卓 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1) 子どもの学びと発達の視点から環境を捉え、環境構成の意義を理解することができる。 2) 発達段階を踏まえた教材や保育環境を探究し、保育活動を計画することができる。 3) 各領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて保育環境を構成できる。 4) 地域の資源を活用した保育活動を計画・展開・評価することができる。			
授業の概要 〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園教育要領の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解し、事例や実践を基に幼児が環境と関わる様子や環境を通して学ぶ姿を理解する。また、子どもを取りまく理想的な保育環境について様々な視点から探究し、プレゼンテーションやディスカッション、模擬保育を通して保育実践力の向上を目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス 領域「環境」の理解 第2回：子どもの学びと発達の視点からみた保育環境の探究 第3回：教材研究①廃材を活用した遊びと教材の探究 第4回：教材研究②文字・数字に触れる遊びと教材の探究 第5回：教材研究③自然物を活用した遊びと教材の探究 第6回：演習①保育教材の制作と模擬保育 第7回：保育環境の探究①運動を促す玩具・遊具の探究 第8回：保育環境の探究②生き物の飼育や植物の栽培を活かした保育環境の探究 第9回：保育環境の探究③音やアートを活かした保育環境の探究 第10回：演習②運動・自然・表現活動を促す園舎・園庭環境のデザインと発表 第11回：地域の資源（自然環境・歴史・施設）を活かした保育活動の探究 第12回：地域の資源（自然環境・歴史・施設）を活かした保育活動の計画 第13回：地域の資源（自然環境・歴史・施設）を活かした保育活動の実践 第14回：演習③地域の資源を活かした保育活動の評価 第15回：まとめ 豊かな園生活を送るための保育環境や活動と小学校との接続を考える 定期試験			

テキスト

幼稚園教育要領解説 フレーベル

参考書・参考資料等

北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房

学生に対する評価

ポートフォリオ30点 課題発表30点 定期試験30点 平常点10点

授業科目名： 保育内容・方法の研究 言葉	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場結子 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：子どもと言葉 到達目標：児童文化財の役割について学び、保育の現場で役立てること。			
授業の概要 日々の保育において子どもはどのように言葉を習得するのであろうか。本授業では言葉の遊びや絵本の読み聞かせを通して、言葉は子どもの心を育てるものであることを理解する。児童文化財を学ぶことによって言葉の役割について考察し、保育現場における指導計画の作成に役立てる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：領域「言葉」について 第3回：乳児と言葉 第4回：幼児と言葉 第5回：保育における言葉の役割 第6回：言葉の遊び 第7回：童謡について 第8回：絵本について 第9回：絵本の読み聞かせ（1） 第10回：絵本の読み聞かせ（2） 第11回：絵本のワークショップ（1） 第12回：絵本のワークショップ（2） 第13回：さまざまな児童文化財 第14回：指導計画の作成 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 毎回プリントを配布する。適宜、必要な文献を紹介する。			
参考書・参考資料等			

幼稚園教育要領解説（フレーベル館） 保育所保育指針解説（フレーベル館）

学生に対する評価

定期試験60点 小レポート等の提出40点

授業科目名： 保育内容・方法の研究 表現	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 磯部哲夫 横溝聡子 早川仁 草野葉子
			担当形態： 複数、オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 ①感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が身に付けていく表現内容と指導上の留意点を理解している。 ②様々な表現の実践を通して、生活や遊びにおける幼児の様々な表現、コミュニケーションとしての表現の役割を理解する。 ③幼児の生活の中での様々な表現の育ち、より豊かな感性や表現に至る過程や具体的な保育場面が想定できる。			
授業の概要 「幼稚園教育要領」における領域＜表現＞のねらいと内容を理解した上で、子どもの感性や表現する力を育てるために必要な保育内容と指導法を身につける。			
授業計画 第1回：「幼稚園教育要領」における領域＜表現＞のねらいと内容（担当：磯部哲夫） 第2回：物に焦点を当てた表現の研究（担当：早川仁） 第3回：色材に焦点を当てた表現の研究（担当：早川仁） 第4回：光と影に焦点を当てた表現の研究（担当：草野葉子） 第5回：子どもの造形表現と育ち（担当：草野葉子） 第6回：弾き歌いの表現方法について（担当：磯部哲夫） 第7回：歌唱を伴った身体表現について（担当：磯部哲夫） 第8回：和音と幼児曲の簡易伴奏付け①（担当：横溝聡子） 第9回：和音と幼児曲の簡易伴奏付け②（担当：横溝聡子） 第10回：簡易伴奏付けによる弾き歌い（担当：磯部哲夫、横溝聡子） 第11回：表現活動の実践と指導法の研究①（担当：磯部哲夫、横溝聡子、早川仁、草野葉子） 第12回：表現活動の実践と指導法の研究②（担当：磯部哲夫、横溝聡子、早川仁、草野葉子） 第13回：指導案の作成と発表準備（担当：磯部哲夫、横溝聡子、早川仁、草野葉子） 第14回：表現活動の発表（担当：磯部哲夫、横溝聡子、早川仁、草野葉子）			

第15回：全体の振り返り。省察を生かし表現領域の展望を考察（担当：磯部哲夫、横溝聡子、早川仁、草野葉子）

定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

実技発表80%、指導案20%

授業科目名： 保育実践研究Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山上裕子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 これまでの保育活動をとおして得られた観察スキルを深める。子どものどのような行為に着眼するのか、過去の観察記録を読み解き、そして実際に観察を行うことをとおして、具体的な子どもの行為の教育的意味の理解を深めることを目標とする。			
授業の概要 保育実践研究Ⅰでは、子どもの活動のうち探究活動について、観察スキルを獲得することを目的としている。内容は、デューイの探究の理論から観察の心理学的・社科学的基盤を講義し、実験学校の記録で具体的に確認する。また、受講生の実習日誌等から子どもの探究活動を抜き出し、観察の着眼点を議論する。着眼点を指標にして附属幼稚園で観察を行い、議論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。探究活動がなぜ求められているのか、「幼稚園教育要領」を手がかりにその背景を議論す。 第2回：教育における探究の必要性 教育における探究の理論の教育的意味を、デューイの理論から学ぶ。 第3回：探究の理論的基盤 デューイの探究の理論の基盤である、有機体が環境と関わる心理学的見方及び社会学的見方について学ぶ。 第4回：実験室学校の子どもたち シカゴ大学に併設された実験学校の実践記録を読む。 第5回：実習日誌をとおした振り返り① 受講生の実習日誌等の観察記録を持参し、子どもの活動の記載を振り返り、子どもの探究活動を抜き出す。 第6回：実習日誌をとおした振り返り② 引き続き探究活動を抜き出し、情報交換する。 第7回：実習日誌をとおした振り返り③ 子どもたちの探究活動の観察の着眼点、および記録の取り方について、議論する。 第8回：観察シートの作成①			

附属幼稚園での観察に向けて、観察シートを作成する。 第9回：観察シートの作成② 引き続き、観察シートを作成する。 第10回：探究活動の観察① 附属幼稚園で子どもの探究活動を観察する。 第11回：探究活動の観察② 附属幼稚園で子どもの探究活動を、引き続き観察する。 第12回：観察記録をまとめる 観察シートをとりまとめ、情報交換の準備をする。 第13回：観察記録の発表と議論① 観察した記録を発表し、議論する。 第14回：観察記録の発表と議論② 観察した記録を発表し、議論をとおして観察の着眼点を考える。 第15回：まとめ これまで学んできたことをレポートにまとめ、解説を受ける。 定期試験（レポートに代える）
テキスト 特に、指定しない。
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』（平成29年度改訂版）フレーベル館、2018年。 他、適宜、授業で紹介し、資料を配布する。
学生に対する評価 授業参加度（50％）、レポート（50％）

授業科目名： 保育実践研究Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山上裕子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 保育実践研究Ⅰで学んだことを基にして、観察の多様な方法を学び、方法の改良を試みる。これまでの方法では捉えきれない不十分な点について、他の受講生とともに創意工夫をして方法の改良を行うことを目標とする。			
授業の概要 観察の方法について、創意工夫ができるようになることを目的としている。内容は、現在行われている多様な観察の方法の理解、観察の計画を立て、実際の観察を附属幼稚園で実施し、検討し、保育者との学び合いを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育実践研究Ⅰで学んだことを振り返る。 第2回：多様な観察の方法① 写真やビデオ撮影などの機材をとおして、保育状況から観察する方法について学ぶ。 第3回：多様な観察の方法② 一人の子どもを追っていき、時系列あるいは蜘蛛の巣状の図示などの観察方法を学ぶ。 第4回：多様な観察の方法③ エピソード記録について学ぶ。 第5回：観察の計画 観察の実施計画を立てる。 第6回：観察の準備 観察の準備をする。 第7回：観察① 附属幼稚園で、計画に従った観察を行う。 第8回：観察② 引き続き附属幼稚園で、計画に従った観察を行う。 第9回：観察のまとめ 観察記録をレポートにまとめていく。			

第10回：観察の検討

レポートをもとに発表し、検討し合う。

第11回：観察の再検討①

附属幼稚園で再度観察を行い、検討した点を確認する。

第12回：観察の再検討②

引き続き附属幼稚園で再度観察を行い、再検討した点を確認する。

第13回：観察の再検討③

再検討の結果をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。

第14回：保育者との学び合い

保育者にこれまでの報告をするとともに、子どもたちの背景にある状況などを伺う。

第15回：まとめ

これまで学んできたことをレポートにまとめ、解説を受ける。

定期試験（レポートに代える）

テキスト

特に、指定しない。

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領解説』（平成29年度改訂版）フレーベル館、2018年。

他、適宜、授業で紹介し、資料を配布する。

学生に対する評価

授業参加度（50％）、レポート（50％）

授業科目名： 保育学	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山上裕子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 現代の保育の在り方を考えるため、過去の保育思想を学ぶ。授業で取りあげられたトピックについて、多くの議論が積み重ねられてきたことを理解し、他の受講生との議論をとおして、多様な見方や考え方ができることを目標とする。			
授業の概要 「保育原理」「教育原理」で学修した内容を基礎にした講義を行う。内容は、母性、子どもの権利、自己実現、コミュニティーなどのトピックにおいて、コメニウス、ペスタロッチ、ルソー、フレーベル、エレン・ケイ、マスロー、デューイ等の保育思想を取りあげる。方法は、講義に加え、議論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。「保育原理」「教育原理」で学修した人物の思想について振り返る。 第2回：保育における母性の語られ方① 母親という概念枠組みから解放された意味での母性について、コメニウスやペスタロッチらが母親として母性をどのように語っているかを学ぶ。 第3回：保育における母性の語られ方② キンダーガルテン創始者のフレーベルが、母性をどのように語っているかを学ぶ。 第4回：保育における母性の語られ方③ これまでの授業内容から、保育において母性をどう考えたらよいか。受講生同士で議論をし、ミニポートにまとめる。 第5回：啓蒙思想と教育 理性の力に信頼をおく啓蒙思想家たちが、教育にどのような意味を見出してきたのか。ルソーの『エミール』から、守られるべき存在から主体として生きる人間教育について学ぶ。 第6回：子どもの権利と家庭 近代化が進むにつれて、児童労働、貧困などの社会問題が生じていく。改めて家庭教育を取りあげたエレン・ケイの児童の権利について学ぶ。 第7回：セツルメント活動と保育①			

イギリスに端を発するセツルメントと保育との関連を、イタリアのマリア・モンテッソーリによる「子どもの家」の実践をとおして学ぶ。

第8回：セツルメント活動と保育②

セツルメント活動の取り組みから生まれてきた保育について、ジェーン・アダムズのハルハウスの実践や日本の紙芝居などを取りあげる。

第9回：子どもの権利と保育

これまでの授業内容から、子どもの権利に関わる取り組みについて討論し、ミニレポートにまとめる。

第10回：教育における自己実現

何に価値を求めるかによって人は生き方が変わる。マスローの欲求の段階を学び、教育で語られる自己実現について学ぶ。

第11回：遊びという至高経験

マスローは自己実現を至高経験において最も高く、深くなされるといい、子どもにおいてそれは遊びにみられるという。遊びにみられる至高経験について学ぶ。

第12回：コミュニティーと教育

民主主義社会の教育において、コミュニティーという観点を示したデューイ。コミュニティーの観点と教育の関連について学ぶ。

第13回：道徳性の芽生え

コミュニティーの一員としての道徳性の芽生えとみられる事例をデューイの『学校と社会』から取りあげ、具体的な子どもの活動から道徳性の芽生えについて学ぶ。

第14回：保育におけるコミュニティーの実践

これまでの保育活動（実習含む）等において、道徳性の芽生えとみられる子どもの姿を、受講生同士で紹介しあい、今後の保育のあり方を議論する。

第15回：まとめ

これまで学んできたことを振り返り、レポートにまとめ、解説を受ける。

定期試験（レポートに代える）

テキスト

特に、指定しない。

参考書・参考資料等

- ・エレン・ケイ／小野寺信・小野寺百合子訳『児童の世紀』富山房百科文庫、2005年。
- ・A. H. マスロー／佐藤三郎・佐藤全弘訳『創造的人間』誠心書房、1972年。
- ・デューイ／宮原誠一訳『学校と社会』岩波文庫、1957年。

他、適宜、授業で紹介し、資料を配布する。

学生に対する評価

授業参加度（50％）、レポート（50％）

授業科目名： 保育学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山上裕子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
子どもへの関心の変化を多様な領域との関連から学ぶ。授業で取りあげられたトピックについて、他の受講生との議論をとおして、子どもへの関心の変化を理解できることを目標とする。			
授業の概要			
子どもへの関心の変化について、多様な領域との関連を学ぶ。取りあげる内容は、子どもへの関心の始まり、医学や生物学の発展と子どもの研究、アメリカの児童研究運動などを取りあげる。方法は、絵画などの画像資料、調査結果などの資料を使用した講義に加え、議論を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。かつて子どもは関心をもたれず、小さな大人としてみられていたことを学ぶ。			
第2回：子どもへの関心の始まり①			
歴史を振り返ると社会変動から子ども期に眼が向けられるようになる。フィリップ・アリエスの人口動態の研究から、子どもへの関心の変化を学ぶ。			
第3回：子どもへの関心の始まり②			
13世紀以降の、家族の肖像画やブリューゲルの「子どもの遊戯」等、絵画に描かれた子どもから、関心のもたれ方を学ぶ。			
第4回：子どもへの関心の始まり③			
子ども服や子ども用机など子ども向けのモノが作られ始めことに着目して、子どもへの関心の変化を学ぶ。			
第5回：子どもへの関心の始まり④			
これまでの授業内容を踏まえ、大人とは異なる子どもへと視線が変化していくことを確認し、ミニレポートにまとめる。			
第6回：啓蒙思想と子ども			
子どもから始まる新教育の源流であるルソーは、子どもの発見者といわれる。ルソーの『エミール』から大人とは異なる子どもの姿について、改めて読み解く。			
第7回：ロマン主義と子ども			
キンダーガルテンの創始者、フレーベルの子ども観を恩物との関連から学ぶ。			

第8回：医学的関心による子どもの研究①

先天盲の開眼手術後の視覚獲得過程や野生児の研究など、医学の進展から関心をもたれた子ども研究について学ぶ。

第9回：医学的関心による子どもの研究②

医者でもあったモンテッソーリによる、身体測定や衛生管理などについて学ぶ。

第10回：生物学の進展と発達観

ダーウィンの進化論による発達観について学ぶ。医学や生物学などの進展と子どもへの関心や保育への取り組みについて、議論し、ミニレポートにまとめる。

第11回：アメリカの児童研究運動①

アメリカの児童研究運動について、心理学者ホルの児童研究の実態を学ぶ。

第12回：アメリカの児童研究運動②

デューイによる児童研究運動への批判について学ぶ。

第13回：アメリカの児童研究③

子どもを社会の中における存在として、また測定によって測られるものではなく、活動において発生するところに目を向けるデューイの立場に立つ子どもの研究について学ぶ。

第14回：子どもから生まれた遊び

啓蒙としての児童文化ではなく、子どもから発生する遊びについてデューイの実践を学ぶ。

第15回：まとめ

これまで学んできたことを振り返り、レポートにまとめ、解説を受ける。

定期試験（レポートに代える）

テキスト

特に、指定しない。

参考書・参考資料等

- ・P. アリエス／杉山光信、杉山恵美子訳『＜子供＞の誕生』みすず書房、2008年。
- ・M. ハリスン／藤森和子訳『子どもの歴史』法政大学出版局、1996年。

他、適宜、授業で紹介し、資料を配布する。

学生に対する評価

授業参加度（50％）、レポート（50％）

授業科目名： 保育学特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安部高太郎
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代日本社会の変化に対応した保育の在り方について理解することができる。 保育者として、保育の諸問題について保育学の知見を用いて考察することができる。			
授業の概要 「保育者論」で学んだ事項を基盤として、保育をとりまく現代日本社会の変化を考慮しつつ、保育者の役割や資質能力、専門職としての職務内容について理解を深める。さらに、協働的に働く保育者の適性を身につけるために、テーマに即したディスカッション等のアクティヴ・ラーニングの手法を用い、他者と共に保育学の知見を活かして物事を考察する力をつける。			
授業計画 第1回：本講義全体の導入として、保育者の援助の意義について確認する。 第2回：保育者として求められる役割や資質・能力について理解する。 第3回：保育者の専門性と倫理について、全国保育士会倫理綱領などから学ぶ。 第4回：保育者の制度上の位置づけについて、教育職員免許法等を参照して学ぶ。 第5回：保育者の役割としての家庭との連携・保護者支援について理解を深める。 第6回：保育者の役割としての子どもの保育を援助という観点から見直す。 第7回：保育学の知見を用いて、保育者が行うリフレクションとは何かを考える。 第8回：保育における評価と子ども理解の関わりについて考える。 第9回：保育における計画の意義について学ぶ。 第10回：保育における職員間の連携について、チーム保育や同僚性という観点から理解を深める。 第11回：他の専門機関との連携・協働に関して、小学校との連携・協働を中心に具体的につかむ。 第12回：幼保こ一元化と小学校教育との接続に関して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に即して理解を深める。 第13回：保育者のキャリア形成に係る園内研修の意義について知る。 第14回：保育士等キャリアアップ研修に見る保育者としての成長について考える。 第15回：本講義全体のまとめとして、本講義で扱った保育学諸理論の復習をする。 定期試験			

テキスト

- ・小川博久（2010）『保育援助論』（復刻版）萌文書林。
- ・日本保育学会 編（2016）『保育者を生きる：専門性と養成』（保育学講座④）東京大学出版会。

参考書・参考資料等

- ・厚生労働省 編（2018）『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館。
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館。
- ・文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館。

学生に対する評価

授業内容の「70％程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30％、試験70％で行う。

授業科目名： 教育心理学特論	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 折笠国康
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 ①認知や感情などの発達に関する基本概念を理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念や発達について理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄を理解できたか。			
授業の概要 教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。			
授業計画 第1回：認知心理学の基礎を学び、認知の発達について理解する。 第2回：自己概念(自己評価、自尊感情等)について理解し、自己概念の発達について理解する。 第3回：自己概念(自己評価、自尊感情等)について理解し、自己概念の発達について理解する。 第4回：本当の自尊感情、本当の自分について学習し、適応的な自己概念の発達を理解する。 第5回：人間の記憶のメカニズムについて理解する。 第6回：人間の思考のメカニズムについて理解する。 第7回：人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 第8回：内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。 第9回：理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 第10回：学級アセスメントについて理解する。 第11回：アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。 第12回：自主自立の姿、人生を主体的に生きるために必要勇気づけについて理解する。 第13回：アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 第14回：アドラー心理学を概観し、人生を主体的に生きるための知見について理解する。 第15回：試験を実施し、本講義の内容を振り返り心理学的な知見のまとめを行う。 定期試験			
テキスト 指定なし			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業内容の「70%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、試験70%で行う。

授業科目名： 特別支援教育の理論と 実践	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林徹 佐藤久美 担当形態： 複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、特別支援教育の理念、歴史的変遷、関係機関と制度の現状等を把握した上で障がいの種類、障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援について理解し、個別の支援計画、個別の指導計画の作成、評価を演習することで特別支援教育の理論と実践方法について理解を深めることとする。 以下の3点を到達基準とする。 1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別の支援計画、個別の指導計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援についてどの程度理解できたか。			
授業の概要 授業は、前半に特別支援教育の理念、歴史的変遷、関係機関と制度の現状等、障がいの種類、障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援について講義と映像視聴により具体的な理解を深める。後半の個別支援計画の作成、評価については演習として実際に計画を立案し学生相互の意見交換を行うことで多様な視点から特別な教育的ニーズについての理解を進める。【複数教員担当形式】			
授業計画 第1回：特別支援教育の考え方。 第2回：特別支援教育の歴史的変遷、制度と仕組み 第3回：発達障がい児の理解と支援①：発達理論の基礎概念と障がいとの関連について 第4回：発達障がい児の理解と支援②：障がいの基礎概念と発見から支援の流れについて 第5回：発達障がいへのアプローチ 第6回：障がい児の誕生と子育て 第7回：知的障がいとは 第8回：自閉スペクトラム症とは 第9回：身体障がいとは（視覚・聴覚・肢体不自由） 第10回：その他の障がいと障がいではない特別な教育的ニーズ			

第11回：障がい児支援の工夫と他機関連携

第12回：個別の支援計画と個別の指導計画①：特別な教育的ニーズの理解と個別の支援計画

第13回：個別の支援計画と個別の指導計画②：個別の支援計画と個別の指導計画の関連性

第14回：個別の支援計画と個別の指導計画③：個別の指導計画の活用と保育方法の工夫

第15回：まとめ（これからの特別支援教育とは）

定期試験

テキスト

○文部科学省『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017年。

○文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)』2018年。

○文部科学省『幼稚園教育要領解説』2017年。

○内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2017年。

○小林徹、栗山宣夫編著「ライフステージを見通した障害児の保育と特別支援教育」2020年。

参考書・参考資料等

○七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』2008年。

学生に対する評価

1. 授業の終わりに実施する確認テスト及び課題レポートにて50点。
2. 定期試験により50点。
3. 上記を総合して60点以上で合格。

授業科目名： 保育課程特論	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 賀門康博 奥美代
			担当形態： 複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ 「保育実践における子どもを中心とした教育課程の意義とカリキュラムマネジメントの在り方について理解を深める」 到達目標 ①保育におけるマネジメントの意味とその意義について理解できたか。 ②カリキュラムマネジメントにおけるPDCAの意味とその意義について理解できたか。 ③実践例などを元に、保育の各場面におけるカリキュラムマネジメントの実践について理解が深まったか。			
授業の概要 この授業では、基本的には理論をもとにしつつ、実際の保育現場におけるカリキュラムマネジメントの在り方について学修していく。教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）と示されている点からも、園の組織と共に保育者自身が教育課程を編成していく事が重要であり、授業を通してその力を身につけていく。 実務経験：幼稚園教諭（現在は園長（賀門）、副園長（奥））として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 複数教員担当方式			
授業計画 第1回：オリエンテーション（本授業の概要等について）（担当：賀門、奥） 第2回：社会状況との関係から考える保育3法令の変遷の歴史について（担当：賀門、奥） 第3回：乳幼児期における「生きる力」と育みたい資質・能力について（担当：賀門、奥） 第4回：保育における「カリキュラム」の考え方について（担当：賀門、奥） 第5回：保育における「カリキュラムマネジメント」の意義とその範囲について（担当：賀門、奥） 第6回：PDCAサイクルに基づくカリキュラムマネジメントとは（担当：賀門、奥） 第7回：保育の記録と省察（1） ～保育における様々な記録とその意味～（担当：賀門、奥）			

第8回：保育の記録と省察（2） ～記録からの省察について～(担当：賀門、奥)

第9回：幼稚園、保育所、こども園におけるマネジメントの実践例から考える（1）(担当：賀門、奥)

第10回：幼稚園、保育所、こども園におけるマネジメントの実践例から考える（2）(担当：賀門、奥)

第11回：特別なニーズのあるこどもの支援に関するマネジメントについて（1）(担当：賀門、奥)

第12回：特別なニーズのあるこどもの支援に関するマネジメントについて（2）(担当：賀門、奥)

第13回：保護者との連携をマネジメントする意味とその方法について(担当：賀門、奥)

第14回：地域、関係機関との連携や接続に関するマネジメントについて(担当：賀門、奥)

第15回：まとめ(担当：賀門、奥)

テキスト

- ・池田幸代、田中謙編著『マネジメントする保育・教育カリキュラム』（教育情報出版）
- ・松本峰雄監修、浅川繭子他著『保育の計画と評価 演習ブック』（ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

- ・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- ・保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府)
- ・授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

授業参加度30% レポート70%

科目名： パソコン実践演習	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口猛
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 情報モラルを把握していること 2. 実務で求められる文書作成ソフトの操作ができること 3. 独自性を持った資料作成を行うための創意工夫ができること			
授業の概要 パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。具体的には、子どもや家庭を対象とした情報モラル教育を題材として、一貫した資料作成・アンケート調査・データ集計・プレゼンテーション資料の作成を行う。実務で求められる業務資料作成に必要な文書作成ソフトの技能を学習する。また、表計算ソフトを用いた集計方法とグラフ作成を理解し、データ集計の基礎を身に着ける。最後に、プレゼンテーションソフトを用いた表現方法と動画作成技法を学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業内容を説明と、パソコンの基本設定を確認する 第2回：情報モラルの理解 子どもの情報モラルに関する現状を理解する。統計資料や、子ども・保護者向け情報モラル講習の内容を踏まえて、課題にも触れる。 第3回：情報モラルの指導 第2回で学習する情報モラル教育の具体例として、タイムマネジメントとリスクマネジメントを理解する。 第4回：著作権・肖像権 教材や資料作成で注意すべき、著作権や肖像権について学ぶ。特に、最近では園の活動の様子をホームページ公開する次回以降の資料作成で必要な対策を理解する。 第5回：資料作成演習（1） 情報モラルの現状を保護者調査するためのアンケート用紙を想定し、フォント・インデント・挿入・PDF等の機能理解を行い、文書作成演習を行う。（学習機能：オートコレク			

ト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、ページ区切り、段組みなど)

第6回：資料作成演習（2）

第5回の続き（学習機能：表作成、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、PDF作成など）

第7回：資料作成演習（3）

完成したアンケート用紙の講評と、改善点の確認及び修正を行う。

第8回：データ集計演習（1）

第7回までに作成したアンケート用紙を用いたアンケートの模擬実施、および表計算ソフトでのデータ集計を行う。（学習機能：テーブル作成・管理・スタイル・レコード抽出並び替えなど）また、などクラウドサービスを用いたWEBアンケートを紹介する。

第9回：データ集計演習（2）

第8回の続き（学習機能：関数・条件付き書式・グラフ作成など）

第10回：プレゼンテーション演習（1）

完成した集計結果を用いて、子どもや保護者に対する情報モラル教育の指導内容を検討する。指導内容は、次回以降作成するプレゼンテーションスライドの基となる。

第11回：プレゼンテーション演習（2）

アンケート子どもや保護者向けを想定したプレゼンテーション用スライド作成演習を行う。（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）

第12回：プレゼンテーション演習（3）

第11回の続き（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）

第13回：プレゼンテーション演習（4）

第12回の続き（学習機能：挿入、アニメーション、録画など）

第14回：プレゼンテーション演習（5）

作成したプレゼンテーションを用いた発表を行う

第15回：振り返り

これまでの学習内容を振り返り、総括する。

定期試験 定期試験は実施しない

テキスト

なし、資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜資料を配付する。

学生に対する評価

文書作成課題40%、表計算課題40%、その他課題20%とする。

授業科目名： 臨床心理学	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇治和子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 臨床心理学がどういう学問か説明できる			
2. 家族や子どもに対する心理療法にはどんなものがあるか概略を説明できる			
授業の概要			
臨床心理学とは、心に何らかの問題を抱える大人や子どもに対して、心理学の観点から問題の理解と解決につながる糸口を示し支援する方途を探求する学問である。本講義は、臨床心理学の基本となる考え方の他に、親子関係に焦点を当てて取り扱われる問題を幅広く紹介する。			
授業計画			
第1回：臨床心理学とはなにか			
第2回：臨床心理学の歴史			
第3回：臨床心理学的アプローチ			
第4回：心理アセスメントについて			
第5回：カウンセリングマインドについて			
第6回：発達臨床心理学（乳幼児）			
第7回：発達臨床心理学（児童）			
第8回：発達臨床心理学（思春期青年期）			
第9回：発達障害と臨床心理学			
第10回：子どもへのアプローチ			
第11回：家族臨床心理学の歴史			
第12回：家族の問題（DV・児童虐待など）			
第13回：家族臨床心理学的アセスメント			
第14回：家族へのアプローチ			
第15回：現在社会と臨床心理学			
定期試験は代替レポートとする			
テキスト 特に指定せずレジュメを用意する			
参考書・参考資料等 適宜紹介する			
学生に対する評価 ディスカッションへの積極的参加30%・課題発表30%・レポート提出40%			

授業科目名： 臨床心理学演習	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇治和子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 1. 相談支援を行う際の臨床心理学的対人接近の方法について、理解し実践できる。 2. 心理アセスメントについて理解し、その知識を支援に活かすことができる。			
授業の概要 臨床心理学とは、心に何らかの問題を抱える大人や子どもに対して、心理学の観点から問題の理解と解決につながる糸口を示し支援する方途を探求する学問である。本講義では、臨床心理学の基本に基づいた、人に対するかまえ、相談の受け方（接近の方法）、心理アセスメントの方法などを体験的に学ぶ。そして寄り添いながら支援していくことについての考察を深める。			
授業計画 第1回：臨床心理学的かまえ 第2回：インテーク面接について 第3回：ロールプレイ 1 第4回：ロールプレイ 2 第5回：課題の検討と分析 第6回：課題の発表 第7回：心理アセスメント実習 1（乳幼児発達検査など） 第8回：心理アセスメント実習 2（発達検査・知能検査など） 第9回：心理アセスメント実習 3（認知に関するもの） 第10回：1～3のまとめ 第11回：心理アセスメント実習 5（人格検査など） 第12回：心理アセスメント実習 6（描画法：バウムテスト・HTPP） 第13回：心理アセスメント実習 7（描画法：風景構成法・フォーカシング） 第14回：心理アセスメント実習 8（コラージュ療法） 第15回：5～8のまとめ 定期試験は代替レポートとする			
テキスト 特に指定せずレジュメを用意する			
参考書・参考資料等 適宜紹介する			
学生に対する評価 ロールプレイや課題発表、実習への積極的参加50％・レポート提出50％			